

経営比較分析表

熊本県 相良村

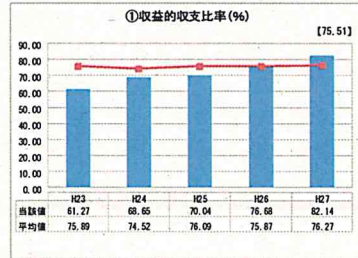
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	71.15	3,500

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
4,705	94.54	49.77
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,327	13.40	248.28

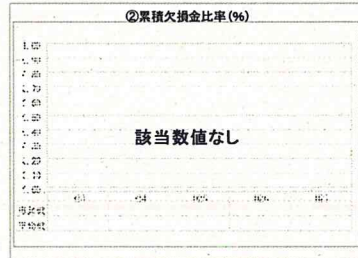
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [] 平成27年度全国平均

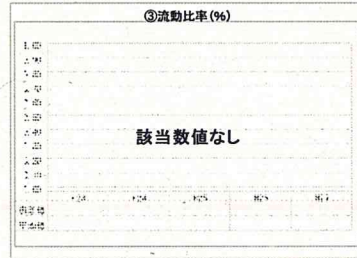
1. 経営の健全性・効率性



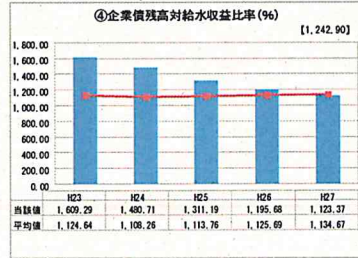
「単年度の収支」



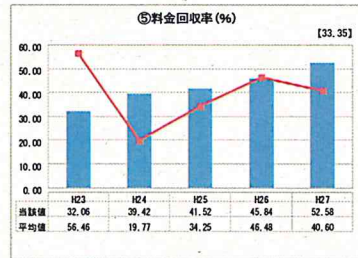
「累積欠損」



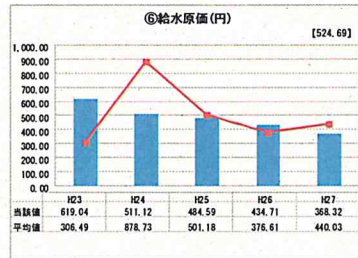
「支払能力」



「債務残高」



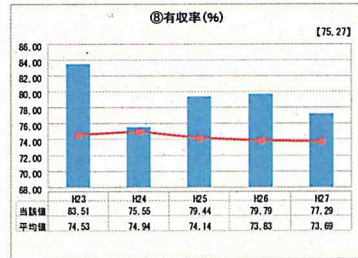
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

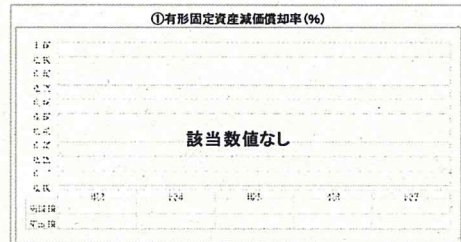


「施設の効率性」

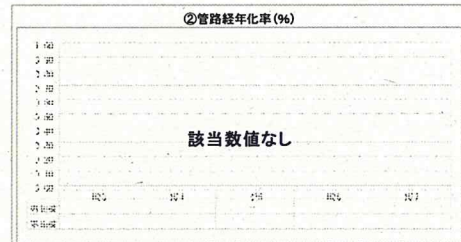


「供給した配水量の効率性」

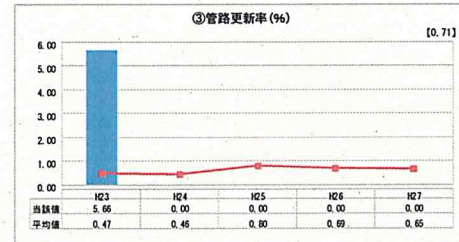
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ・企業債償還について、ピークは過ぎたものの平成27年度では約5,500万円と依然として高額である。
- ・施設の維持管理費についても、委託料・光熱水費・修繕費で年間約2,900万円と多大な費用となっている。
- ・本村の給水整備区域内における普及率は70%前半程度であり、施設利用率等の低下に繋がっているため、村の簡易水道への加入促進を行っていく。
- ・平成28年度の統合計画に基づき平成29年度に区域拡張工事を行うが、借債を借りての工事となるため、その後借債の返還が生じてくる。
- ・消費税の増税等も鑑み、使用料金の見直しも検討していく。

2. 老朽化の状況について

- 相良村の簡易水道給水区域内の中で、供用開始から20年以上経過している施設があり、水道施設や管路等老朽化が進んでいると思われる。老朽化に伴う施設の更新・修繕においては、料金改定や企業債の借入等が必要になる可能性もあるため、経営基盤の強化に努めると共に計画的な更新・修繕を行っていく。

全体総括

- ・有収率が低い傾向にあるため、漏水調査等を行い有収率の向上に努める。
- ・未加入者に対し、加入促進を行う。
- ・既存の施設の統廃合などにより、将来の施設の更新費用や維持管理費用を縮減していく。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の実績数を基に類似団体平均値を算出しています。